



〈目標 12〉 持続可能な消費と生産

持続可能な生産消費形態を確保する

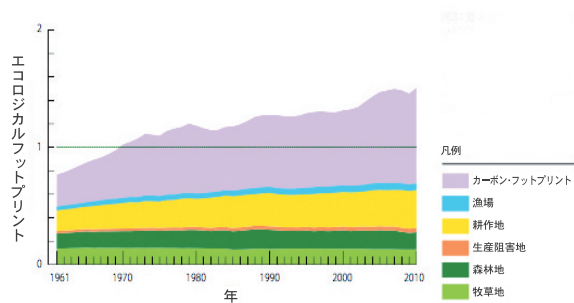
目標 12 の主な内容

- 天然資源の持続可能な管理と効率的な利用を達成する。
- 小売・消費での一人あたり食料廃棄を半減させ、生産・サプライチェーンの食品ロスを減らす。
- 製品ライフサイクルを通じて環境上適切な化学物質や廃棄物を管理し、環境や健康への悪影響を最小化する。
- 大企業や多国籍企業に持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう勧告する。
- 持続可能な公共調達を広める。
- 人々が持続可能なライフスタイルに関する情報や意識を持つようになる。

問題の背景

- 世界では毎年、13億トンの食料が無駄に捨てられています。
- 全世界の人々が電球を省エネ型に変えれば、合計で年間1,200億米ドルが節約できます。
- 2050年までに世界人口が96億人に達した場合、現在の生活様式を持続させるためには、地球が3つ必要になりかねません。
- 世界の10億人以上が依然として、真水の供給を受けていません。

要素別エコロジカル・フットプリント



エコロジカル・フットプリントとは、人間が自然に求める製品とサービスを合計した値です。過去40年以上、エコロジカル・フットプリントは、自然が供給できる量を超過してきました。現在利用する生態系サービスを提供するには、地球1.5個分もの自然の生産能力が必要です。

(WWF「生きている地球レポート」より)

日本の状況

- 食品の製造日から賞味期限までを3等分して設定する商慣習(いわゆる3分の1ルール)が食品ロス発生の一つの要因とされています。
- 世界一自販機がひしめいており、うち半数にあたる256万台が飲料自販機です。
- 鉱物資源に乏しいため鉱物資源を大量に輸入していますが、例えば金を採掘する場合、その質量の100万倍の土砂を採掘する必要があるといわれています。

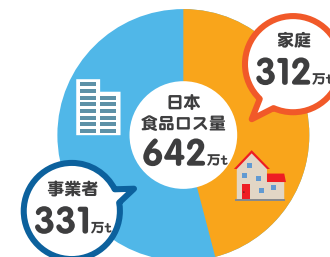
食品ロス



日本では、年間1700万トンの食品廃棄物が出ています。このうち本来食べられる「食品ロス」は500-800万トンで、これは世界全体の食料援助量の約2倍に値します。

(政府広報オンラインより)

日本の食品ロスの内訳



2012年の調査によると、日本の食品ロス量642万tのうち、事業者からは331万t、家庭から312万tとほぼ半数となっています。

(農林水産省および環境省「平成24年度推計」作成)



地域からのヒント

携帯電話やゲーム機などに使われるレアメタルの調達にあたり、環境破壊や強制労働、児童労働などが問題とされています。欧州では、エシカル(倫理的)な基準で原料調達や生産が行われる「Fairphone(フェアフォン)」が支持され、売り上げを伸ばしています。日本では、環境や人権団体などからなる「エシカル・ケータイ」キャンペーンが、ワークショップ等を通じてレアメタルを巡る課題について普及啓発し、解決策を探る場を提供しています。



(by Fairphone)